

第6学年3組 音楽科学習指導案

指導者 飯田 美千代

- 1 題材名 「いろいろなひびきを味わおう」
教材名 「星空はいつも」「歓喜」「ラバースコンチェルト」

2 題材について

(1) 題材観

本題材は、歌声と楽器の音や、いろいろな楽器の音が重なり合うそれぞれの響きを味わったり、美しい響きを求めて演奏の仕方を工夫したりする活動を中心とする学習である。学習指導要領の

A 表現 (1) 歌唱 エ 互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。

A 表現 (2) 器楽 ア 範奏を聴いたり、ハ長調及びイ短調の楽譜を見たりして演奏すること。

イ 曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって演奏すること。

エ 各声部の楽器の音や全体的な響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること。

B 鑑賞 (1) イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴やよさを理解すること。

【共通事項】(1) ア (ア) 音色 音の重なり

(イ) 反復 変化

に関連した内容である。

子どもたちはこれまでに、身近な楽器や身の回りの物を通して音の特徴や音色の違いを感じ取ったり、音の組み合わせ方による響きの違いなどに気付いたりしながら、表現の仕方を工夫する活動を行ってきた。鑑賞では、3年生では金管楽器、4年生では木管楽器、弦楽器、5年生では吹奏楽と弦楽合奏の響きについて学習してきた。ここではそうした学習経験を生かして、いろいろな音が重なり合う響きを感じ取ったり、より美しい響きになるように、楽器を選択したり、楽器の音色を生かした演奏の仕方を工夫したりする活動をさらに進めていくようにする。また、オーケストラの様々な楽器が重なり合って生まれる、いろいろな響きも味わっていく。音の重なりが変化すると、同じ旋律でも曲想が異なるということを通して、「表現」や「鑑賞」を通して、じっくりと体感させていきたい。

そこで、本題材では「表現」と「鑑賞」の学習の効果的な結びつきを探るべく、指導計画と評価のありかたに視点をおいて授業展開をしていきたいと考えた。

これまで、題材というまとまりの中で、いくつかの教材を取り上げ、授業を構成してきた。題材の中で扱う教材は、どれも〔共通事項〕を抛りどころに結びつきをもたせてきたが、1つ目の教材で学んだことが、2つ目の教材の学びの手がかりになっていくという、発展性のある学習にはなっていなかったのではとの反省がある。特に「表現」と「鑑賞」の学習の関連性については、課題があると感じていた。

そこで、今回は、あらためて題材を通して「身に付けさせたい力」を明確にし、指導計画を見つめ直すこととした。1次の「表現」での学びがあるからこそ、2次の「鑑賞」で気付くことができ、2次の「鑑賞」での気付きがあるからこそ、3次の「表現」を広げていくことができるという、子ども自身の力で学びを発展させていく指導計画を立案し、題材の目標に迫っていきたいと考えた。また、子どもが、前の学習で学んだことを自らの力で次の学習に生かしていくためには、毎時の目標が達成

達成されていく必要がある。毎時の指導に対しての評価を適切に行い、付けたい力が身についているかを十分確認したうえで、指導を進めていきたい。

今回のような学習が、将来、例えば「ボレロ」(ラヴェル作曲)を聴いたとき、「この曲って同じ旋律が何度も繰り返されている。」「でも、響きがどんどん変化してすごく盛り上がっていく。」「同じ旋律なのに何度も聴きたい。」「どんな楽器が演奏しているのか実際に見てみたい。」「演奏会へ行ってみよう。」「自分でも演奏してみたい」というように子どもの中で広がっていくこと、つまり、音楽科の目標にある「生涯にわたって音楽を愛好する心情」につながっていくことを、願っている。

(2) 児童の実態 (男子16名 女子19名 計35名)

本題材に取り組むにあたって、これまでの子ども学習の様子から以下の項目について、実態を述べる。

○音楽の学習への関心・意欲・態度について

- ・本学級の子どもたちは素直で前向きである。毎年校内の音楽会に取り組むため、音楽活動に意欲をもっている児童が多い。
- ・歌うことが好きで、学級での「朝のうた」などにも進んで取り組んでいる。
- ・鑑賞では、楽曲に合わせて身体反応をしながら楽しく聴くことができる。
- ・友達と違う考えになることや、間違えることを恐れるため、自分の考えがあっても発表をためらうことがある。

○「音色」や「音の重なり」について

- ・歌唱では、自然で無理のない、響きのある歌い方(音色)で歌うことを心がけるようになってきている。5年の後期からは合唱にも意欲をもって取り組み、異なる旋律を重ね、互いの音を聴き合いながら歌うこと(音の重なり)を楽しむ姿がみられる。主旋律・副次的旋律の役割について考え、音量のバランスについても気を付けて歌うことができるようになってきている。
- ・器楽では、昨年「リボンのおどり」を教材としてアンサンブルを行い、各パートの旋律の特徴から、パートに合った楽器(音色)を選択する学習をした。木琴や鉄琴の演奏についてはイメージに合った音色が出せるように、いろいろな種類のマレットで音を確かめ選択していく姿が見られた。
- ・鑑賞では、3年生で「金管楽器」4年生で「木管楽器」5年生で「吹奏楽」「弦楽合奏」の響きを学習してきた。今回の学習を行うにあたって、音色の聴き分け調査をおこなったところ、約半数の子どもが音色から演奏楽器を当てることができなかった。そこで、その場で管楽器・弦楽器についての復習をした。

○音楽の仕組み「反復(くり返し)」について

- ・これまでの学習の中で、音楽の仕組み(反復・問いと答え・変化)については、何度も取り上げてきた。新しい音楽に接する際にも、比較的多くの児童が音楽を聴いたり、楽譜を見たりして音楽の仕組みに気付くことができる。

〈考察〉

1次では、子ども達が好きで常に親しんでいる歌唱の学習(教材「星空はいつも」)を導入とし、意欲を喚起させていくようにする。これまでのように、子どもは歌詞の情景を思い浮かべ、それにあった歌い方(音色)を工夫していくと思われる。また、合唱や合唱奏を楽しむ中で、旋律が重なって生まれる響きを十分に味わわせたい。同じ旋律でも、斉唱、合唱、合唱奏という形態により響きを変えることで曲の雰囲気が変わる面白さを感じ取らせていくことができると考える。

2次では「歓喜」を鑑賞するが、これまでの経験から子ども達は「音楽の仕組み(反復)」に気付くことができると予想する。その仕組みを手がかりに、反復される度、響きや曲想が変化していくこの

楽曲の面白さに迫っていきたい。響きを変化させていく演奏楽器についても、実態調査を行いながら復習を行ったので、ある程度聴き取ることができるのではないかと考えるが、演奏楽器がわからない場合には、いくつかの楽器の絵を示し「どの楽器が演奏していると思う？」と問いかけ、それをヒントに結び付けられるようにしていきたい。

(※子どもには「反復」ではなく、「くりかえし」とう言葉を使っている)

3次では器楽アンサンブルに取り組む。実態にあるように、前回の器楽アンサンブルでは旋律の特徴から楽器を選択した。そのため「このような響きにしたいから、こうした楽器を選択し組み合わせる」というような響きをイメージしての楽器の選択は、本題材が初めてになる。子どもの思いや意図を尊重していきたい。

また、授業全般を通して、感じ取ったことや自分の思いや考えを、自信をもって発言できるような雰囲気づくりを心がけていきたい。

(3) 指導観

第1次では「星空はいつも」を教材として取り上げる。この曲はAA' BA' の2部形式で、Bの部分が合唱になっている。また、リコーダーや鉄琴などの楽器で演奏する副次的旋律が加えられている。学習の最初に主旋律だけを取り上げ、歌詞や曲想からどんな歌い方(音色)で歌ったらよいかを考えさせながら斉唱させるようにする。次に、Bの部分を合唱する。(音の重なり)この時、斉唱と合唱の響きの違いを聴き比べ、それぞれのよさを十分味わわせるようにしたい。最後に副次的旋律を楽器(リコーダーや鉄琴)で演奏し、合唱と合わせるようにする。響きがより豊かになり、新たな響きが生まれることを実感させていきたい。この活動を通し、一つの旋律に音を重ねていくことで響きや強弱が変わり、曲想が変化していくと感じ取らせ、2次への学習の足がかりとさせたい。

第2次では「歓喜」を教材として取り上げ、鑑賞を行う。この楽曲は同じ旋律が響きを変えて3回くり返されている、反復の音楽である。これまでの経験から、子どもたちは音楽を聴きすぐに「反復」という仕組みに気付くことができると予想する。旋律がくり返される度、何が変化していくのかに焦点を当てて聴き取らせていきたい。子どもたちは1次の「星空はいつも」での学習を手がかりに「同じ旋律が繰り返されているけど、繰り返される度に、音色が変わる(演奏楽器が変わった)・響きが変わる・音が強くなる」ということに気づき、さらにそうしたことが関わりあって、この楽曲の曲想を生み出していることにも気付いていくことができると考える。この楽曲の面白さを感じ取らせていきたい。

第3次では「ラバースコンチェルト」を教材として、グループアンサンブルを行う。この曲はA 8 + A' 8 の1部形式で、「歓喜」と同様「反復」の音楽である。使用する楽器については指定がなく、子どもたちは自分でどんな響きにしたいかを考え、楽器を選択していくことになる。その際「この楽器が好きだから」というような選択方法ではなく、1次、2次で学んだことを基に、「歓喜のように、1回目はやわらかい響きにしたいから、この楽器で演奏したい。そして2回目は…」というように、「歓喜」での学習を手がかりに響きをイメージしながら楽器選択をさせていくようにしたい。また「1回目はしっとりとした感じにしたいから、主旋律だけにして、2回目はパートを増やし華やかな響きにしたい。」など、どう表現したいかという思いや意図を明確にもたせ、表現の工夫をしていくようにさせたい。

そして学習の終わりにもう一度「歓喜」を鑑賞させたい。「ラバースコンチェルト」の表現を行った後の鑑賞ということで、2次では気付けなかった新たな気づきがあり、「歓喜」という曲のよさを深く味わうことができると考える。

3 題材の目標

- 歌声や楽器が重なり合ういろいろな響きの特徴や違いを感じ取りながら、思いや意図をもって表現したり、響きの違いや曲想の変化を聴いたりすることができるようにする。
- 音の特徴や音色の違いを生かして、全体の響きのバランスに気をつけながら、音の組み合わせを工夫して演奏することができるようにする。

4 題材の評価規準

ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽表現の創意工夫	ウ音楽表現の技能	エ鑑賞の能力
歌声や楽器の音色、重なり合ういろいろな響きを味わって聴いたり表現したりする学習に主体的に取り組もうとしている。	歌声や楽器が重なり合う響きの違いを感じ取り、美しい響きを求めて、歌い方や楽器の組み合わせ方を工夫している。	歌声の響きや楽器の音色に気をつけ、それらが重なり合う響きを互いに聴き合いながら、パートの役割を生かして合唱したり合奏したりしている。	楽器の音色やその組み合わせによってもたらされる曲想や響きの変化を味わいながら聴いている。

5 題材の指導計画および評価計画 (8時間扱い)

次	時	○学習内容 ・主な学習活動	学習活動における具体的評価基準	共通事項
1次	1	○「星空はいつも」の曲全体の感じをつかみ、気づいたことを生かして歌詞唱する。 ・楽譜を見たり、歌詞を読んだりして、気づいたことを話し合う。 ・範唱を聴き、分かったことや、感じ取ったことからどのように歌いたいか思いをもつ。 ・音程に気をつけて歌詞唱する。	ア 歌詞の内容や、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 ウ 歌詞の内容、曲想を生かした表現で歌っている。	音色
	2	○曲の特徴や、思いから歌い方を工夫する。 ・1, 2, 4フレーズ目と3フレーズ目の違いや、楽譜の強弱記号に注目し、旋律の特徴を生かした歌い方を工夫する。 ・音程に気をつけて下声部を歌う。 ・主旋律の響きに合うように、下声部の響きを工夫し、バランスに気をつけて二部合唱する。	ウ 主な旋律や副次的旋律、全体の響きを聴きながら、自分の声を調和させ、二部合唱している。	音の重なり
	3	○副次的な旋律を楽器で演奏する。 ・教科書で選ばれている楽器が、リコーダーと鉄琴なのはどうしてか話し合い、曲に合った楽器について考える。 ・楽器を選んで、#・bのついている音やリコーダーの運指に気をつけて練習する。 ・曲の感じに合った演奏の仕方に気をつけて演奏する。	ウ 曲想を生かした表現で、リコーダーや鉄琴を演奏している。	
	4	○歌と副次的な旋律を重ねて合唱奏する。 ・全体の音量のバランスや、楽器による響きの特徴に気をつけて演奏する。 ○斉唱・合唱・合唱奏の響きの違いや、それぞれの演奏による感じ取り方の違いをワークシートにまとめる。	イ 互いの歌声、主な旋律や副次的な旋律、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、声や楽器の音を合わせて演奏する表現を工夫し、どのように演奏するかについて自分の考えをもっている。	

2次	5 (本時)	<p>○楽器の音色や重なり合う響き、その変化による曲想の違いを味わって「歓喜」を聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽のしくみや、演奏している楽器の音色の変化に気をつけて聴く。 ・演奏している主な楽器を知り、その響きの特徴を感じ取る。 ・楽器の音色やその組み合わせによる響きの変化と、曲想の違いを感じ取って聴く。 	<p>ア 反復、楽器の音色や、音の重なり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>エ 反復、楽器の音色や、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出す面白さを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。</p>	音色	音の重なり	反復	変化
3次	6	<p>○「ラバースコンチェルト」の範奏を聴き、曲の特徴をつかみ、主旋律を演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・範奏CDを聴き、気づいたこと(反復・音の重なり)を話し合い学習の見通しをもつ。 ・4つのパートの役割を確かめる。 ・シブの指使いや、リズムに気をつけて、①のパートをリコーダーや鍵盤ハーモニカで練習する。 	<p>ア 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>ウ 範奏を聴いたり、ハ長調の楽譜を見たりして演奏している。</p>				
	7	<p>○自分たちのイメージに合う表現を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに曲のイメージを話し合い、それに合う楽器の音色を選び、その組み合わせを工夫する。 ・同じパートどうしで、音程やリズムを確かめ合って練習する。 	<p>ア 自分たちのイメージした響きに合う楽器を選んで表現を工夫し、思いや意図をもって演奏する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>				
	8	<p>○全体のバランスを工夫して演奏する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに互いの楽器の音色を聴き合い、主旋律を中心とした響きになるように、音量のバランスや、演奏の仕方を工夫しながら、合奏する。 	<p>ウ 主な旋律や副次的旋律、全体の響きを聴きながら、自分の音を友達の音と調和させて合奏をしている。</p>				
	9	<p>○自分たちのイメージに合う表現を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに自分たちのイメージを生かした演奏を発表し合い、楽器の選び方や、パートのバランス、重なり合う響きについて、気づいたことを話し合う。 <p>○学習したことを生かして「歓喜」を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色や響きの変化と曲想の違いを味わって聴き、楽曲のよさについて語る。 	<p>イ いろいろな楽器の音が重なる響きのよさを感じ取りながら、音を合わせて演奏する表現の仕方を工夫し、どのように演奏するかについて、自分の考えや意図をもっている。</p> <p>エ 曲想とその変化などの特徴や音楽を形づくっている要素の関わり合いから、感じ取ったことを言葉で表して、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</p>				

5 本時の指導 (5/9)

(1) 本時の目標

○音楽の仕組み(反復・変化)を聴き取り、楽器の音色や、その組み合わせによる響きの違い、曲想の変化を感じ取ることができる。

(2) 視点とのかかわり

【視点3】評価を生かした指導をするために

○題材の指導計画の工夫と評価

題材全体を通して、音の重なり方による響きの違いとそれによる曲想の変化に焦点をあて、学習を進める。第2次に鑑賞を位置付けることで、1次から3次までの学習が、子どもの気付き、学びを手がかりに進めていくことができるように、指導計画を立案した。前時の気付きや学びが次時の学習に生かされるようにするためには、毎時の目標が確実に達成されていく必要がある。毎時の評価規準により目標の実現状況を確認しながら、特に「努力を要する」と判断される子に適切な手立てをとっていくようにしたい。

○本時の評価規準

ア 反復、楽器の音色や、音の重なりに関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。

エ 反復、楽器の音色や、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いによってつくられる、楽曲の構造を理解して聴いている。

この、評価基準を実現させるために、本時は次の二つの手立てを講じる。

① ワークシートの活用

楽曲の構造を理解させるために、音楽全体を帯で表した図を使い、音楽の仕組みを理解させる。「演奏している楽器」や「感じ取ったこと」をその図の中に音楽の流れに沿って書き込んでいくことで、「反復」「音色と音の重なり」「曲想の変化」の関わりが明確になると考える。また、時間とともに進行する音楽の、どの部分について話しているのかを全体やグループで共有するために有効であると考ええる。

② 付箋紙の活用

感じ取ったことをグループの中で知らせ合って共感したり、自分とは違う表し方に触れたりする活動を行う。感じ取ったことを付箋紙に記入し「音楽の仕組みの図」に貼ったり、互いの付箋を見合っ
て気付いたことを図に書き込んだりしている様子を見取っていきたい。

また、自分の思いを書き表したり、発言したりすることに苦手意識を持っている子どもへの手立てとして、付箋紙に書かれた友達の感じ方を参考にすることを促したり、自分の感じ方に近いものを探させたりする。友だちの考えを参考にして、安心感をもって、自分の思いや考えを、言葉にしていくことができると考える。

(3) 展開

学習活動と内容	教師のかかわり	備考
<p>1 楽曲全体を聴き、気付いたことや印象に残ったことを発表する。</p> <p>○楽曲全体の雰囲気をつかむ (試聴①)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明るく、はずんだ感じ。 ・同じ旋律が何度も出てくる。 ・だんだん音が強くなっている。 <p>2 子どもの意見を確認しながら聴く。</p> <p>○旋律の繰り返しに気をつけて聴き、音楽の仕組みを確かめる。(試聴②)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きく分けて3つの部分がある。 	<p>○音の重なりが生み出す曲想の変化と、主だった子どもの発言を板書し意識付ける。</p> <p style="text-align: right;">☆反復</p> <p>○第1主題が再現されるところで、気づくようにうながす。</p> <p>○楽曲のつくりが視覚で分かるように、黒板に図で示す。</p>	<p>・楽曲の構造図</p>
<p>音楽の仕組みから、曲のおもしろさを見つけよう。</p>		
<p>○同じ旋律が3回くり返される、それぞれの部分の違いに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音の強さが変わった。 ・楽器の音が変わった。 <p>3 楽器の音色や、重なり合う音の響きを確かめる。</p> <p>○楽器の音色や、重なり合う音の響きの変化に気をつけて聴く (試聴③ 部分)</p> <p>○演奏している主な楽器を知り、それぞれの響きの特徴を話し合う。(試聴④ 部分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めの部分…弦楽器 ・2番目の部分…ホルンと木管楽器 ・3番目の部分…すべての楽器 金管楽器、打楽器が目立つ <p>4 楽器の音色や響きの変化と、曲想の違いを</p>	<p>○3回のくり返して感じが変わるところが1次の学習と同じことを想起させる。</p> <p>○「音色」のカードを提示</p> <p style="text-align: right;">☆音色</p> <p>○聴く観点を「音色や響きの変化」とし、変化したところで挙手させる。</p> <p>○手を挙げたところが、楽曲のどの部分分かるように、図と対応させて示す。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ア 反復、楽器の音色や、音の重なりに関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。(挙手の様子、発言)</p> </div> <p>○楽器の写真を提示して音色のイメージをもてるようにする。</p> <p>○その部分を取り出して聴き、それぞれの音色を確かめられようにする。</p> <p>○それぞれの部分は、「星空はいつも」の学習と同じで、音の重なり方が違うことを確認する。</p> <p style="text-align: right;">☆音の重なり</p>	<p>・音楽の要素のカード</p> <p>・楽曲の構造図</p> <p>・楽器の写真</p>

<p>味わって聴き、グループで考えを話し合う。</p> <p>○1～3回目のそれぞれの旋律について、楽器の響きによって、曲想がどのように違うか聴き比べ、付箋紙にメモして、「音楽のしくみ」に貼っていく。(試聴⑤)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小さい喜び～喜びが重なる～大きな喜び ・だんだん響きに広がりが出てくる。 ・全部の楽器が合わさるとはなやかな感じ。 <p>○貼られた付箋を見合って、共感するところ、友達の表現の良さなどをグループで話し合い、図に書き込む。</p> <p>5 楽曲全体を味わって聴く。</p>	<p>○楽器の音色で話し合ったことを参考に、音の重なりに気をつけて聴くように助言する。</p> <p>○書き進められない子には、「曲名からそれぞれの部分がどんな喜びか」「どんな場所で演奏しているのがイメージできるか」などヒントとなる声かけを用意する。</p> <p>エ 反復、楽器の音色、音の重なりを聴き取り、それらの働きが生み出すよさを感じ取りながら、音楽を形づくっている要素のかかわり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている (付箋のやりとりの中の発言、ワークシートへの記述内容)</p> <p>○音の重なり方の違いから、曲想が変化することを意識して聴くように声をかける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・付箋紙 ・楽曲の構造図 ・ワークシート
---	--	--

平成25年度
市教研音楽部会 Cブロック

音楽科学習指導案

研究主題

伝えよう、私の音楽、私の心

【指導・助言】

千葉県立さつきが丘西小学校
教頭 内藤 一夫 先生
千葉県立畑小学校
教頭 小泉 聖子 先生
千葉県立西の谷小学校
教頭 和泉 みさ子 先生

【日時】

平成25年6月18日（火）

会場	千葉県立作新小学校
学級	6年3組
題材名	いろいろなひびきをあじわおう
授業者	飯田 美千代

【授業】

14:00～14:45

3F 音楽室

【協議会】

15:30～16:30

3F 視聴覚室

千葉市立作新小学校

《本研究の視点》

- 視点1 思いや意図を伝え合う活動の充実を図るために
- 視点2 思いや意図を表現する力を育むために
- 視点3 評価を生かした指導をするために